

水田転作新規作物「ハトムギ」の品種選定と栽培法

農業試験場

1 背景

平成18年頃、集落営農を核とした農業の法人化を進めるなかで、経営規模拡大後の収入安定に向けた作物の探索が強く要望されていた。

2 目的

水田の4割を占める転作での収入安定を目指し、安定的な販売が期待できる「ハトムギ」の品種選定と栽培方法を確立する。

3 内容

(1) 葉枯病に強い「あきしずく」、「とりいずみ」を選定

当時、主流品種であった「はとむすめ」は、葉枯病に弱く、発生すれば大きな減収となる。

そこで、葉枯病に強く、安定的な収量が得られる品種選定を主目的に8品種について、栽培特性を検討した。その結果、耐病性があり、収量も安定し、本県に適応した九州沖縄農業研究センター育成の2品種を選定した。

(2) 本県での栽培方法を確立し、栽培マニュアルを作成

農事組合法人「やまのうえ」および八頭農業改良普及所の協力を得て、主に以下の点を明らかにした。

- ① 直播栽培を基本とし、播種時期は5月上旬から可能であるが、5月下旬～6月上旬頃が適している。
- ② 安定収量確保のための施肥は、緩効性肥料を用いた基肥全量施用が有効である。
- ③ 播種後約1ヶ月間は、湿害を受けやすいため排水に努めるが、その後はかん水が必要とする。
- ④ 収穫は、大豆用コンバインで収穫できるが、収穫ロスを減らすため、刈り幅を制限する。



ハトムギ収穫作業

4 活用の成果と残された課題

(1) JA鳥取いなば(県東部)管内での重点推進作物となる。

平成24年栽培面積は、22ヘクタールあり、全国5番目の作付規模である。

(2) ハトムギ生産協議会の設立

JA鳥取いなばが事務局となり、構成員は生産者、実需者、JA、普及所等からなり、種子生産、栽培研修、加工品の商品開発等について、検討されている。

(3) 成果情報の発信

ハトムギについての成果PR版、及び栽培マニュアルについては、農業試験場ホームページに掲載している。



主な開発商品

